

2012年度 成果報告書

神奈川県新しい公共の場づくりのためのモデル事業 『神奈川特命子ども地域アクター養成アクションー 子どもと大人がともに地域に参画しあう社会基盤構築を目指して』



【かながわ子どもの地域社会参画推進会議事務局】 〒224-0001横浜市都筑区中川1-4-1-411 (ILoveつづき内)NPO法人ミニシティ・プラス Tel&fax (045)306-9004 (月〜金9時〜17時) メールアドレスminicityplus@gmail.com

このプロジェクトの会議体メンバー

神奈川県県民局青少年部青少年課/NPO法人ミニシティ・プラス NPO法人横浜プランナーズネットワーク/NPO法人 アクションポート横浜 NPO法人 教育支援協会 /NPO法人 シャーロックホームズ / リスト株式会社



特命子ども地域アクター事業 成果報告書 目次

1. 事業の目的	P1
2. 事業の概要(日時、参加人数、内容、写真)	
(1)全体スケジュールの振り返り	P5
(2)特命子ども地域アクターについて;募集と子ども会議▶	P7
(3)まちづくりのいろは講座について	P8
(4) まちづくり団体について;募集とお見合い会、交流会	P8
(5)17 団体への派遣の報告	P10
(6)成果報告フォーラムの概要	P14
(7) 推進会議について	P16
3. 事業の評価	
(1) 特命子ども地域アクターの視点から	P17
① 事業参加したことへの自己評価	
②事業評価	
(2) まちづくり団体の視点から	P19
① 事業参加したことへの自己評価	
②事業評価	
(3)推進会議の視点から	P20
③ 組織・事務局体制	
④ ネットワーク構築	
(4) ネットワーク構築について(協力体について)	P22
4. 今後に向けて	P23
< 資料編 >	

1. 事業の目的

(1) 事業の背景

(1) 子どもの社会性を育み、子どもが社会に参画できる機会を増やすことの必要性

現代の子どもたちの多くは、家庭、学校、習い事や塾などの間を往復するだけの狭い世界で生活しており、家庭や社会から特に役割を与えられることもなく、勉強と遊びだけに専念することを求められる「専業子ども」となっている。そのような環境の中で、出番を失い主体性を発揮できない子ども、デリケートで傷つきやすく、未知への挑戦に消極的な子どもが増えている。

しかし、様々な価値観を持った人々が生活し、めまぐるしく情勢が動く現代の社会の中で、自分とは考え方が 異なる人と関係を築くコミュニケーション能力や、新しい社会状況や人間関係に素早く適応できる能力は、共 生社会を生きる上で不可欠であり、不登校やひきこもり等の困難を抱える子どもや若者の増加を予防する視点 からも、早い段階から他者と豊かに関わり、一緒に社会をつくっていく力(=社会性)を身につける必要性は高 まっている。例えば、青少年問題について審議を行う神奈川県青少年問題協議会(知事の附属機関。事務 局:県青少年課)では、平成22~23年度の審議テーマを「地域で育む子どもの社会性~子どもの社会参画 をすすめるために~」とし、主に4歳から12歳までの低年齢期をターゲットとして、小さな実体験を少しずつ積 み重ねていくことにより、社会性の芽を育むことや、子どもの社会参画の取組を推進することの重要性について 審議、実践及び検証を行ってきた。

② 地域まちづくり現場における「よそ者」「若者」への期待と、次世代育成への課題

参加協働型市民社会の到来と言われる中、特に地域まちづくりの現場では、まちづくりに必要といわれる「よそ者」「若者」への期待は大きい。また、その地域の課題に気づき、自ら解決に取り組む「地域アクター」や、その解決に向け産官民学等での協働事業を実施するにあたっての専門的知識を持った「まちづくりコーディネーター」が不可欠である。

しかし、実際には地域アクターとなる人材の固定化や、まちづくりコーディネーターの高齢化等の問題があり、いずれも次世代の後継者育成が課題となっている。

③ 地域まちづくりへの参画に向けた子どもの意欲増進を受けた体制づくりの必要性

地域活動を行う中高生の「ジュニアリーダー」組織、ボランティア活動、子どもが主体となって企画・運営する「子どものまち」などの活動に積極的に参加し、社会参画を試みる子どもも一部では存在している。しかし、学校教育におけるボランティア活動などでは、「参加した」ということに留まり、活動の発端となった地域課題の把握や、実際に活動に取り組む側に自らが回って企画等から携わるといった段階にまで発展することはほとんどない。

理想の姿は、子ども達が対等に地域と関わり、子ども達の社会参画を促す体制が日常からごく自然に組まれ、 大人と対等な「地域アクター」となっていることであるが、そのケースは稀であり、実際の地域において大人側が そのように子どもを受け入れている事例は少ない。

(2) 本事業の目的

"本事業では、平成 22~23 年度の神奈川県青少年問題協議会の審議テーマ「地域で育む子どもの社会性~子どもの社会参画をすすめるために~」の骨子を引き継ぎ、以下の三点を行うことを目的とする。

(1) 「子どもの社会参画の推進」をめざした横のネットワークを創る

県内の子どもにかかわる団体組織(子ども支援事業者)、地域まちづくりの中間支援センター等、地域 課題やまちづくりの現場をよく把握する団体組織(まちづくり関係事業者)の組織化を図り、会議体及び協力体(会議体には所属しないが、事業の実施において協力を求める)を設置する。

② 特命子ども地域アクターの募集・育成と派遣

地域社会に積極的に関わる意欲ある子どもを「特命子ども地域アクター」として募り、まちづくりに関しての勉強会やまちづくりインターン(まちづくり現場派遣)を通して、特命子ども地域アクターの素養と経験を培い、子ども達の社会参画の機会を提供する新たな仕組みを構築する。

3 社会啓発

会議体の事業内容や実施状況を広く紹介するとともに、県内各地へ、地域社会への子どもの参画の輪を広げていくための「第一回子ども地域社会参画フォーラム」を開催する。

(3) 組織体制

① 神奈川子どもの地域社会参画推進会議

NPO法人 ミニシティ・プラス(全体事務局)

神奈川県県民局青少年部青少年課、県立青少年センター指導者育成課

NPO法人 教育支援協会神奈川支部

NPO法人 シャーロックホームズ

NPO法人 横浜プランナーズネットワーク

NPO法人 アクションポート横浜

リスト株式会社

② 協力体

会議体を補佐する形での組織づくりの独自の工夫として、他の子ども支援事業者、まちづくり中間支援セクター、まちづくりの現場を持つ地域まちづくり組織や行政関係者、企業、子どものまち運営組織による「協力体」を設置する。

事業内容

<平成 23 年度>

- 1 会議体及び協力体を組織し、HP等を活用しネットワークを構築する。
- 2 特命子ども地域アクターの募集、任命

<平成 24 年度>

- 1 特命子ども地域アクターによる子ども会合(会議体との合同会合も含む)の開催
- 2 特命子ども地域アクター向け「いろは勉強会」の企画・実施
- 3 まちづくりインターンシップ(まちづくり現場派遣)の企画・実施
- 4 子ども地域社会参画フォーラム開催

特命子ども地域アクターグループ

(中高生を中心に、一人で行動できる意欲的な小学生高学年も含む) 30 人

会議体

まちづくり関係事業者

体制

NPO 法人横浜プランナーズネットワーク (インターン先まちづくり現場の紹介・調整)

まちづくり関係事業者

NPO 法人アクションポート横浜

(いろは勉強会への支援・ノウハウ提供)

子ども支援事業者

NPO 法人教育支援協会神奈川支部

(地域リーダー養成講座等の PG 参加者への広報)

子ども支援事業者

NPO 法人シャーロックホームズ

(青少年のためのファシリテーター養成 PG 参加者への広報)

神奈川県県民局青少年部青少年課

+

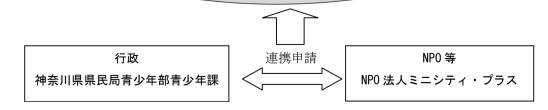
NPO 法人ミニシティ・プラス(事務局)

協力体(独自の工夫)

- ・インターン先まちづくり現場→まちづくり中間支援セクター、地域まちづくり組織 (戸塚フリーステージ実行委員会、洋光台まちづくり協議会、和田町タウンマネジメント協議会など)
- ・子どもへの情報提供→こどものまち運営組織、こども若者支援事業者

(公益財団法人 よこはまユース など)

- まちづくり現場の仲介・情報提供等→行政関係機関
 - (横浜市文化観光局創造都市推進課、小田原市企画部企画政策課など)
- ・CSR として資金・人材・資材・現場の提供→企業 CSR 他
 - (リスト株式会社、横浜市立大学国際都市学系まちづくりコース (2012.4 設置予定) 等)

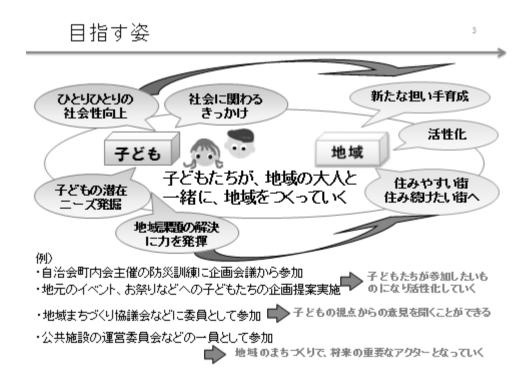


(4) 期待される効果

- ① 社会に参画できる子どもを育成し、まちづくりという具体的な現場を提供するという、従来にはなかった新たな仕組みを構築することにより、本事業が、子どもの社会参画モデルの好事例となって、将来的にはまちづくり以外の取組へも波及していく効果を狙う。また、子ども地域社会参画フォーラムの自主企画運営等を通して、企画力及び他者をコーディネートし事業を進める調整能力を、子どもが自然に身につけることや、「特命子ども地域アクター」の活躍が、多くの子どもにとってよいロールモデルとなり、社会に積極的に関わるうと考えるきっかけとなることを期待する。
- ② まちづくり組織と子どもの支援事業者が同じ組織体として直接結び付く機会が少ない中、当会議体がコーディネーター機能を果たし、地域まちづくりの次世代育成事業として「特命子ども地域アクター」を養成・派遣することで、新しい関係と議論の場、人材交流が生まれる。まちづくりにおける後継者育成問題の改善や、まちづくりの活性化に寄与する。

また買い物弱者等の増加、非常時の要介護者への支援問題等、高齢化・人口減少に伴う高齢単身者や核家族増加との影響によるまちの課題への取り組みに対して、子どもも積極的に課題解決に加わることにより、まちを支える一員としての意識の高まりや、実際に役割を担うことを期待する。

③ 積極的に地域や現場にかかわろうとする子どもの潜在的ニーズを汲み取り、活動の場をまちづくりの現場につなげることで、地域の現状や課題を子どもが認識し、新たな「地域アクター」となるきっかけを与える。



参考資料:事業申請プレゼンテーション

2. 事業の概要(日時、参加人数、内容、写真)

(1) 全体スケジュールの振り返り

(1)				T
日程		会議・その他	日程	団体への派遣
2012年1月	27 日	推進会議①		
2012年2月	19日	事業説明会(小田原)		
	24 日	事業説明会(横浜)		
	24 日	推進会議②		
2012年3月	4日	事業説明会(相模原)		
	24 日	事業説明会(横浜)		
	28 日	推進会議③		
2012年4月	15日	第1回子ども会議		
2012年5月	13日	第2回子ども会議&推進会議		
	27 日	第1回まちづくりのいろは講座		
2012年6月	3 日	第2回まちづくりのいろは講座		
	10 日	第3回まちづくりのいろは講座		
	17日	第4回まちづくりのいろは講座		
	24 日	第5回まちづくりのいろは講座		
		団体とのお見合い会		
2012年7月	8日	第3回子ども会議&推進会議④		
			18日	あざみ野防災拠点打ち合わせ
			21 日	あざみ野防災拠点イベント当日
			22 日	I LOVE YOKOHAMA 打ち合わせ
			22 日	小田原まちづくり応援団打ち合わせ
			25 日	富士通研究所講座&打ち合わせ
			28 日	和田町タウンマネジメント打ち合わせ
			28 日	つづきミュージックビート打ち合わせ
			31 日	思いやりライト打ち合わせ
2012年8月			1日	富士通バンカート取材
			4 日	I LOVE YOKOHAMA ゴミ拾いイベント
			6 日	和田町タウンマネジメント打ち合わせ
			6 日	保土ヶ谷打ち合わせ
			8日	みなとみらい 21 打ち合わせ
			8日	おもいやりライト取材
			8日	富士通横浜市大取材
			9日	和田町タウンマネジメント打ち合わせ
			10 日	篠原の里下見&打ち合わせ
			12日	戸塚フリーステージ打ち合わせ
			13 日	足柄アートフェス会場下見&打ち合わせ
			15日	戸塚フリーステージ打ち合わせ
			10 日	篠原の里下見&打ち合わせ

			12日	戸塚フリーステージ打ち合わせ
			18日	保土ヶ谷打ち合わせ
			18日	篠原の里本番(宿泊)
			19 日	篠原の里本番
			22 日	おもいやりライト取材
			23 日	小田原イベント本番
			25 日	つづきミュージックビート PR
			25 日	I LOVE YOKOHAMA イベント本番
			27 日	富士通原稿チェック&振り返り
			29 日	FM戸塚出演
			29 日	都筑民家園下見&打ち合わせ
			29 日	おもいやりライト発表会
			30 日	スポーツゴミ拾い MT
			31 日	Love つづきデザイン会議
2012年9月			9日	戸塚フリーステージ本番
			13 日	保土ヶ谷打ち合わせ
			20 日	スポーツゴミ拾い打ち合わせ
			27 日	スポーツゴミ拾い打ち合わせ
			29 日	和田町タウンマネジメント打ち合わせ
2012年10月			6 日	みなとみらい 21 本番
			6 日	保土ヶ谷祭り本番
			7日	みなとみらい 21 本番
	7日	第4回子ども会議&推進会議⑤		
			9日	みなとみらい 21 報告会
			13 日	和田町タウンマネジメント打ち合わせ
			21 日	スマイルミニシティこども会議
			27 日	スマイルミニシティ本番
			28 日	スマイルミニシティ本番
2012年11月			4 日	都筑民家園イベント振替日
	11 日	推進会議⑥&フォーラム準備		
			17日	つづきミュージックビート前日準備
			18 日	つづきミュージックビート本番
	25 日	フォーラム準備		
2012年12月	1日	フォーラム準備		
	2 日	フォーラム本番		
2013年1月	8 日	推進会議⑦		
			1	
	13 日	アクター会議		

(2) 特命子ども地域アクターについて

① 募集について

4月1日から5月7日までに、5名の応募者があり、第4回推進会議(5月13日開催)にて、全員特命子ども地域アクターとして承認された。

また、第4回推進会議にて、今後は、いろは講座と共催である横浜市立大学エクステンション講座の受講者のみ、アクターへの応募が可能としたが、エクステンション講座の受講者2名から応募があったため、推進会議メンバーに応募動機をメール等で連絡し、アクターとしての承認を得た。

平成23年度分と併せると、小学5年生~高校3年生まで、計27名の応募があり、1名が応募後に辞退し(学校のスケジュールとアクターとしての活動スケジュールが合わないため)、26名が特命子ども地域アクターとして承認された。

*参考資料:アクター募集チラシ(ポスター)

② 特命子ども地域アクターが集まる「子ども会議」の定期的開催

- ▶ 平成 24 年4月 15 日(日)13 時半~15 時半 第1回子ども会議(県立青少年センター)(17 人出席) 写真1,2
- …アクターの顔合わせ、「まち」について考えるワークショップ等
- ▶ 平成 24 年5月 13 日(日)13 時半~15 時半 第2回子ども会議(県立青少年センター)(アクター24 人、推進会議メンバー12 人出席) 写真3, 4
- …推進会議メンバーとの顔合わせ、企画力ワークショップ
- ▶ 平成 24 年7月8日(日)15 時半~17 時半 第3回子ども会合(県立青少年センター)(子どもアクター16 人、推進会議メンバー9人出席) 写真5,6
- …特命子ども地域アクターへの派遣先希望の最終確認、派遣時の注意事項などの説明、今後のスケジュールの 確認
- ▶ 平成 24 年 10 月 7 日 17 時~18 時半 第 4 回子ども会合(関内リスト本社 5 階会議室)(子どもアクター17 人出席)写真7
- …特命子ども地域アクター、各活動の進捗報告、活動に参加しての気づき、ワークショップ形式、成果発表会(フォーラム)の運営中心メンバーの募集、今後のスケジュールの確認
- ▶ 平成 24 年 11 月 11 日第 5 回子ども会合 13 時~15 時(県立青少年センター)(子どもアクター11 人出席)
- …特命子ども地域アクターへ成果発表会(フォーラム)の概要を説明、成果発表会(フォーラム)の準備、アクターにいままでの活動について、個別ヒヤリング、成果発表会(フォーラム)での役割分担













(3) まちづくりのいろは講座について

いずれも会場は横浜創造都市センター、時間は10時半~12時で開催した。

▶ 5月 27 日(日)第一回「まちづくりとはなにか?~都市づくり、まちづくり、ひとづくり~」

講師:三輪律江(横浜市立大学学術院国際総合科学群 准教授) 参加24人(講座運営をサポートする学生スタッフ2人)

▶ 6月3日(日)第二回「多様なまちづくりが展開する『ヨコハマ』」 講師:三輪律江(横浜市立大学学術院国際総合科学群 准教授) 参加13人(学生スタッフ5人)



▶ 6月 10 日(日)第三回「クリエイティブなまちづくり~横浜都心部活性化への挑戦」

講師:鈴木伸治(橫浜市立大学学術院国際総合科学群 准教授)参加 17 人

▶ 6月 17 日(日)第四回「安全・安心のまちづくり~横浜中間郊外地域の取り組み」

講師:山路清貴(NPO 法人横浜プランナーズネットワーク理事長) 参加 16 人(学生スタッフ4人)



▶ 6月 24 日(日)第五回「ワークショップ~自分たちのまちについて考えてみよう」

講師:高城秀之(NPO 法人アクションポート横浜 事務局長) 参加 23 人(学生スタッフ8人)

> *参考資料 エクステンション講座参加者募集チラシ 講座レジメ(1回、2回、3回、4回、5回)

(4) まちづくり団体について;募集とお見合い会・交流会

① 参加団体の募集(募集期間:)

プロジェクトに参加し、アクターを派遣する、まちづくりの現場をもつ団体募集のため説明会を実施

- ▶ 平成 24 年 2 月 19 日(日)13 時~15 時 小田原市役所 7 階大会議室
- ▶ 平成 24 年 2 月 24 日(金)18 時~20 時 県立青少年センター
- ➤ 平成 24 年 3 月 4 日(日)13 時~15 時 相模原市民会館 以下の 19 団体から申込があり、18団体がお見合い会に臨んだ。





	所在地	活動内容
	横浜市中区	 神奈川県足柄上地域の観光の魅力づくりや活性化を目的に、神奈川県が主催している。この地域のア
	(神奈川県足柄	ーティストの調査や、地域住民を中心とした、対話·体験型ワークショップなどを行い、実験的
1	上地域)	にASHIGARAアートフェスティバルを昨年開催。今年度は、小田原、箱根などとも連携しながら、9月~
		プログラムをこどもたちと一緒に考えたい
	横浜市泉区	横浜が大好きな人たち8万人が登録する、SNSのコミュニティ「I LOVE YOKOHAMA」が、オフラインで行
2	ISON CONTRACT	う活動として、クリスマスにサンタクロースの恰好をして <u>みなとみらいで一斉ゴミ拾い</u> をしたり、 <u>山下公園で</u>
		<u>のキャンドルナイト</u> をしたりしている。ネット上で緩やかに集まった人たちが、大好きな横浜のために、無理
		なく自分たちのできることをしている。
	横浜市都筑区	まちの環境調査からはじまり、まちを知り、まちが元気になる活動ならどんなジャンルでも行動しています。
3		<u>こどもたちとのサバイバルキャンプ</u> 、地域の人たちとの連携による <u>打ち水、キャンドルナイト</u> イベント、 <u>ICTの</u>
		力を使ったまちの情報化支援(ホームページをつくってあげる支援や、自主ホームページによる、まちの
		情報の発信など)など。
	相模原市南区	相模原を拠点に、インターネットテレビでのビデオ配信でまちの情報貢献をしている。取材先はまちの魅力
4	→派遣せず	を伝える場所や、献血センターなど社会的にPRしたい場所やコト。 <u>こどもたちのレポーター</u> も積極的に取り
	#12-1-#-	入れている。
	横浜市青葉区	災害時並びに平常時の防災拠点運営のために設置された組織「地域防災拠点運営委員会」は、周辺
5		自治会の役員・防災関係者、学校関係者、区職員で構成される組織。運営委員会の開催、 <u>防災訓練</u>
		<u>の企画と実施、拠点防災備蓄資機材の点検、地域住民への防災・減災の啓蒙活動</u> を行っている。初の 計れ上して7日21~22日の親スの党道体験訓練を行う。
		試みとして 7 月 21~22 日の親子の宿泊体験訓練を行う。 交通事故が一番多い時間帯、夕方の 16 時~18 時にはやめに車のヘッドライトをつけて、事故を防止し
	横浜市中区	文通事成が、番多い時間帯でラカの 16 時で16 時には 800に <u>年のペッドライドを 37 で、事故を防止し</u> ようというプロジェクト。国立天文台公式サイトの日の入り(日没)30 分前の時間を目安日本各地の 9 エリ
6		<u>ようというプログェブト</u> 。国立大文日公式サイトの日の大外日及7500分前の時間を日安日本各地のフェブリーアに分けてウェブサイト、Twitter、Facebookで発信している。秋に行うイベントでは、子どもたちにも広がる
		ような「おもいやりライト運動」にも取り組んでいく予定。
	相類原市南区	こどもたちが主体となって、限定された空間と期間で、仮想のこどものまちをつくるプロジェクトを行ってい
_		る。こどもたちが主体となって行っていきたいのですが、現在は小学 4 年生が中心で、大人が主導で行い
7		がちです。大人口出し禁止のまちを実現するため、こども会議のファシリテーター、当日のイベントのお手
		伝いをしてくれる中高生を積極的に募集しています。
	横浜市都筑区	都筑区に在学在住のバンド、ダンスチームなどが出演するコンサートイベントを中高生のスタッフをいれな
8		
0		都筑公会堂の舞台に立ちます。 <u>それらを支える裏方</u> も、できれば中高生を中心に行いたいため、運営か
		らのボランティアを広く募集しています。
	横浜市中区	横浜・神奈川を中心にイベントや様々なプロモーション事業を行っている企業。今年度の企画として、み
9	中共砂油	なとみらいのある商業施設の夏の企画として、商業施設のスペースを使った、子ども達による「縁日」や
	→事前辞退	<u>「お祭り」を体験するような場「夏休みこども計画!」</u> を行います。こどもたちを巻き込むことで、地域に根
		付いた商業施設の活性化を図りたいと考えています。
	横浜市保土ヶ	<u>保土ヶ谷やその周辺地域が、魅力ある地域になるようなまちづくり事業</u> を行っています。宿場まつり、 <u>区</u>
10	谷区	民まつりなどの地域のイベントへの参加、まちあるき、まちの研究、地域ブランドづくりなどを行い、情報を
		発信しています。地域活性を促進するため、青少年の人たちをまちづくりに巻き込んでいけたらと考えてい
		ます。
	横浜市西区	横浜みなとみらい21地区のビルや企業がお互いに協定を結び、賑やかでたくさん人が集まり、美しいまち をつくるために様々な活動をしています。現在は、駅前広場や歩道、公園などの公共空間をバンド演奏や
11		<u>を うへるため</u> に稼べなお勤をしています。現在は、駅前広場や少道、公園などの公共空間をハンド演奏や カフェなどができる場所にしてより楽しいまちにしていくために、実験的に「ジャズ&ワイン」などのイベントを
		別グエなどができる場所にしてより来じいようにしていただめに、美願的に「フャス&ブイク」などのインファン 開催してアンケート調査などをして行政等に提案しています。
	#***	戸塚区の活性化のため、駅前のイベントを中心に戸塚の地域まちづくりを行っています。駅前でのコンサ
12	横浜市戸塚区	ア塚との右性化のため、 <u>駅前のイベンドを中心に戸塚の地域よろうべ</u> を行うといます。駅前での <u>コンカー</u> 一トや出店、盆踊り大会などを活発に行っています。秋に行うイベントでこどもたちにもお店を考えて出店し
'-		1 に出席、温明の人芸なことが見られる。人間に行うれるとしてものにもにもあるとものには、
	小田原市南町	小田原のまちを盛り上げる、まちづくり活動をしています。具体的には、このまちの特色を生かしたイベント
	い田が川曽町	の開催や、まちあるき検定、地域ブラントの開発などです。小田原以外のこどもたちにまちあるきなどをし
13		てもらい、子どもたちの目を通じて小田原の街の印象や感想を聞き、今後のまちづくりに活かしたいと考え
		ています。
	横浜市都筑区	精神障害を持つ人たちが、畑作業をしながら社会復帰を目指しています。これまでにもこどもたちと一緒
14	고 사내마시어	に畑作業をしたり、地域の人たちを招いてのイベントも積極的に行ってきました。 <u>畑で採れた野菜を使った</u>
		イベントや、野菜を使った新商品の開発などをしていきたい。
15	横浜市都筑区	横浜市都筑区の大塚・歳勝土遺跡公園内にある、江戸時代の建物を復元した古民家を使い、多くの地
	シャン・・・・ ロアクロドー	

		<u>域交流イベントや文化事業</u> を行っています。秋にはアーティストを招いて、民家園を使ったアートイベント
		を行います。今年は、こどもが参加できるこどもたち主体のアートイベントも行いたいと考えています。
	相模原市緑区	里山で培われてきた文化や伝統を校正に残すべき財産であると考え、 <u>里山保全に理解を求めるため、</u>
16		地域交流イベント等を行っている。具体的には、ホタル観察会、野鳥観察会、草狩、敬老会など。青少
		年にも主体的にかかわってもらいたい。
	東京都渋谷区	全国に広がっている、スポーツのように競いあいながら、ゴミ拾いをしてまちをきれいにする活動「スポーツ
17		<u>ゴミ拾い」</u> をしています。横浜では、リスト(株)が地域の人たちと連携して、さまざまな場所で定期的に行っ
		ています。こどもたちの参加も多いです。 <u>楽しくゴミを拾い、まちを美しくする活動</u> です。
	川崎市中原区	まちのために行動しているNPO, NGOなどのリーダーを紹介し、ホームページでCSRとして企業から発信
18	7111131111 1 1/31	しています。わかりやすく伝わりやすいものにするためや、子ども達にもそのような活動を知ってほしいた
		め、こどもたちに取材、記事作成などに協力してもらっています。
	横浜市保土ヶ	横浜国大学生グループが地域のこどもたちを巻き込みながら、地域の賑わい空間づくりへの参加をしてい
19	谷区	る。例として小学生を対象とした、 <u>まち学習ワークショップや探検マップを</u> ベースにした「わだまちナビ(仮
		称)」小冊子の作成、商店街イベント と して、和田べっぴんマーケットなど。

▶ お見合い会・交流会

平成 24 年 6 月 24 日(日)13 時半~15 時半(横浜創造都市センター)、まちづくり団体 18 団体と、特命子ども地域アクター(この日の出席は23人)とのお見合い会を開催した。まちづくり団体からの団体紹介、事業説明後、子どもたちが各ブースを回って個別に説明を聞いたり、質問する時間をとった。その後、子どもたちには、第1希望~第5希望までを提出してもらった。

終了後 15 時半~16 時半まで、まちづくり団体同士の交流の場を設けた。

上記のお見合い会をやむを得ず欠席したアクター3名に対し、資料を送付した上で、電話にて説明を行い、派遣先の希望をとった。

▶ 子ども地域アクターの希望とまちづくり現場とのマッチング

平成 24 年7月8日(日)に開催した第5回かながわ子ども地域社会参画推進会議にて、特命子ども地域アクターの希望とまちづくり現場とのマッチングを行い、17 団体への派遣が決定した。

*参考資料 まちづくり団体募集チラシ、説明会参加者募集チラシ

(5) 17 団体への派遣の報告

(1) あざみ野第二小学校地域防災拠点運営委員会

ミッション: 小学校で行う避難所体験での防災クイズワークショップを企画し行う。 その日の寝床作りのアドバイスをし、こどもたちの手助けをする。 子どもアクター3 名参加

- ◆7月 18 日 事前打ち合わせ at 左近山コミュニティカフェあんさんぶる
- ◆7月21日22日 本番 at あざみ野第二小学校 体育館

☆寝床作りでは、ダンボールを使った低めのパーテーションの提案などをし、寝床作りを手伝った。



② 富士通研究所

ミッション:まちづくり団体の活動を取材し、多くの人に知ってもらえるような記事を、こどもの目線で書き、ホームページ等で発表する。

子どもアクター2 名参加

- ◆7月25日 取材についてのレクチャーや取材先の選定。
- ◆8月1日 創造都市拠点 Bank ART1929 の池田氏を取材。アートを介し



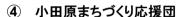
たまちづくりについて聞く。

- ◆8月8日 横浜国大の学部長を取材。大学としてのまちづくり教育方針や地域貢献について聞く。
- ◆8月27日 記事のまとめ、振り返り会議 at 県民サポートセンター (その日2名のアクターが宿泊し、7月22日の朝の解散まで参加した)

③ 篠原の里

ミッション:福島から来ているこどもたちとの交流や食事づくりのお手伝いと大石神社まつりでの屋台の考案し、実行する。翌日のこども神輿を担ぎ、お祭りを盛り上げる。子どもアクター4名参加

- ◆8月10日 事前打ち合わせと会場下見 at 篠原の里
- ◆8月18日~19日 宿泊し、さまざまな手伝いと大石神社での屋台、次の日の神輿担ぎ。
- ◆福島の小さいこどもたちの面倒をみたり、食事づくりを手伝ったり、夜は大石神社まつりで、屋台を行なった。翌日はこども神輿をかついで、お祭りを盛り上げた。



ミッション: 清閑亭で行われる「自然観察会」を盛り上げる! 子どもアクター4 名参加

- ◆7月22日 事前打ち合わせ at 清閑亭
- ◆8月23日「自然観察会」at 清閑亭
- ◆当日は受付、準備、イベント時のお手伝いのほか、宿題になっていたマークを発表し、自然観察会でつくる紋の参考となった。

5 I LOVE YOKOHAMA

ミッション: SNS ミクシィのコミュニティを通して生まれたゴミ拾いイベントに、子 どもも参加できる方法について、活動に参加しながら、感じたことを提案。 子どもアクター3 名参加

- ◆7月22日 事前準備会議(8月4日のための) at 戸塚
- ◆8月4日 保土ヶ谷から鎌倉ゴミ拾い合戦のの戸塚駅に参加。ネット中継も担当。
- ◆8月25日 金沢区の海の公園でのゴミ拾い活動に参加。事前準備としてゴミを入れるカゴを作成するところから参加。花火大会の前の浜をきれいにした。

⑥ おもいやりライト運動事務局

ミッション:おもいやりライト運動を広く知ってもらう方法を考え、提案する。 子どもアクター4 名参加

- ◆7月31日 おもいやりライト運動についての説明を聞く(日産本社)
- ◆8月8日 おもいやりライ運動参加企業の大川印刷訪問取材(横浜駅)
- ◆8月22日 おもいやりライト運動参加企業のシクロポリタン訪問取材





- ◆8 月 29 日 おもいやりライト運動の会議での発表、提案(開港記念会館)
- ◆おもいやりライトに参加している企業の取材記事をまとめ、この活動を広めるためのアイデアを発表した。 ホームページにも成果が書かれている。

⑦ 戸塚フリーステージ実行委員会

ミッション: セプテンバーコンサートを盛り上げるしかけをつくる、裏方を全面 的に手伝う。

子どもアクター4 名参加

- ◆8月15日 事前打ち合わせ
- ◆8月29日 FM 戸塚に出演、フリーステージを PR
- ◆9月9日 セプテンバーコンサートの準備、裏方スタッフ、出演、ユーストリーム放送等
- ◆セプテンバーコンサートのパンフレットのデザインも行い、裏方スタッフ、出演、ユーストリーム放送、片付 まで行なった。出演では、「だいすきとつか」という、戸塚の子どもたちが以前ワークショップをしてつくった曲 をロックアレンジして演奏、コンサートを盛り上げた。ユーストリーム放送を全面的に担当し、放送しきった。

8 和田町タウンマネジメント協議会

ミッション:和田町で行われるまちあるきイベントにこどもたちがたくさん参加 できるようなアイデアを練る。子どもアクター4名参加

- ◆7月28日 和田町まちあるき下見
- ◆8月6日/8月9日 チラシづくり at 横浜国大
- ◆9月29日 地域の人たちとの打ち合わせに参加
- ◆10 月 13 日まちあるきイベント実施。地域の人たちとまちあるきを行い、発表を行うなど、積極的にイベ ントを盛り上げた。

9 つづきミュージックビート実行委員会

ミッション:都筑区で行われる中高生のイベントのスタッフとして、大人以上 にしっかり動く。子どもアクター6 名参加

- ◆7月 28 日 顔合せ&イベントでの PR(チラシ配り)
- ◆8月25日/9月15日 定例会議出席
- ◆9 月 16 日 イベントでのチラシ配りでの PR
- ◆11 月 17日リハーサル、18 日が本番。 朝 9 時~18 時くらいまでの長時間に渡り、それぞれの役割(司 会、受付、裏方スタッフ等)をしっかりこなす。

① 横浜みなとみらい 21

ミッション:社会実験的に行われるイベントに参加している一般の方たちか ら、イベントやイベント会場の公共の場の有効活用についての、アンケート をたくさん集める方法について考え、実行する。子どもアクター3名参加

◆8月8日 打ち合わせ at みなとみらい事務所





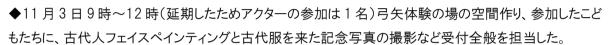


- ◆10月6日7日イベント当日にクリップボードを使い、アンケート調査を行った。そのようすをビデオに撮影。 10月9日の夕方、みなとみらい21会議室にて、報告を行った。
- ◆ビデオは10月9日には間に合わなかったが、編集し、提出。その後の会議で投影し、報告されたとのこと。

① 都筑民家園

ミッション: 10月 28日に行われるアートイベントでこどもたちが参加できるイベントの工夫をし、当日運営する。子どもアクター3名参加

- ◆8月29日 事前打ち合わせ
- ◆10月27日13時~17時準備、10月28日本番9時開始早々雨となり延期。





ミッション:足柄アートイベントでのこどもたちの参加する旗作りを盛り上げる。 子どもアクター3 名参加

- ◆8月13日 足柄の会場下見
- ◆11 月 3 日 4 日に行わるイベントで、元気旗をつくるプロジェクトのリーダーを努め、5つの旗を完成させた。



③ ほどがや人まち文化振興会

ミッション:保土ヶ谷宿場まつりにこどもたちが多く参加できるプログラムを考え、実行する。子どもアクター2 名参加

- ◆8月18日 保土ヶ谷の歴史についてレクチャーを受け、イベントの説明を受ける。
- ◆9月13日 事前打ち合わせ会議
- ◆10月7日イベントで保土ヶ谷宿場の浮世絵の新聞切り絵を、参加者みんなで完成させた。また、じゃがいもを祀った神輿をつくり、当日参加のこどもたちと担ぎ、祭りを盛り上げた。

① I Love つづき

ミッション: 障がい者の作品や製品を売るショップのパッケージデザインの会議に参加し、意見を出す。

実際のショップでお手伝いをし、今後の売り方についての提案をする。 子どもアクター2 名参加

- ◆8 月 31 日 デザインミーティング at I Love つづき事務所
- ◆10 月 13 日ハウスクエアでの販売は都合がつかず欠席。11 月 12 日 13 日の販売の一部お手伝いを し、その体験をもとに売り方について団体と一緒に考えた。





(15) スポーツごみ拾い

ミッション:横浜駅で行う、スポーツゴミ拾いの会議から参加し、多くの人 に参加してもらえるような提案をする。

当日はリーダーとなって、主体的に参加する。子どもアクター2名参加

- ◆8月30日 ◆9月20日 ◆ 9月28日 事前会議参加
- ◆10月7日のスポーツゴミ拾い本番は雨の為延期。
- ◆10月27日のスポーツゴミ拾い本番

当日の受付や、ゴミ拾いが終わって集計する間を、子どもたちが退屈しないよう、ゲームを提案し、行なっ た。

(16) スマイルミニシティさがみはら

ミッション:こどものまちを盛り上げる、スタッフとして働く。 子どもアクター3名参加

- ◆9月2日 こども会議に参加
- ◆10月21日子ども会議、10月27日事前準備、10月28日本番。 こどものまちのお店が少ないため、アクターもソースせんべい占い、アク セサリー屋さんなどを開き、店長を務めた。



① 都筑ハーベスト

ミッション: 畑で採れたものでの新商品を開発するお手伝いをする。 子どもアクター2 名参加

- ◆9月16日 顔合せとイベントでの野菜の販売体験。
- ◆10月13日地域のおばちゃんに郷土料理と昔のお菓子づくりを教えて もらい、商品開発の一歩とする。
- ◆12月1日、翌日2日の成果発表会(フォーラム)で、訪れた人たちに試食をしてもらうため、ぼったら焼 きの準備をハーベストでお手伝いした。

(6) 成果報告フォーラムの概要

1 準備会議

平成 24 年 11 月 25 日 10 時~15 時(県立青少年センター、子どもアクター16 人出席) 平成 24 年 12 月 1 日 10 時~18 時(県立青少年センター、子どもアクター16 人出席)

② 当日の概要

12月2日(日)県立青少年センターホールで、子どもアクターと17団体が順番に成果を発表。

- 12時45分~ 青少年による、オープニングバンド演奏
- 13 時~15 時半 推進会議代表からの事業の概要説明。各団体が、以下の活動の成果について発 表。
 - A) あざみ野第二小学校地域防災拠点運営委員会 →防災訓練の中の子ども向け防災ワークショップの企画と実施他
 - B) 特定非営利活動法人小田原まちづくり応援団



- →歴史ある建物「清閑亭」の中で行った自然体験イベントへの協力
- C) 富士通研究所ソーシャルソリューション研究部
 - →企業が運営するまちづくりイノベーション HUB サイトの取材記事作成
- D) NPO 法人篠原の里
 - →廃校になった学校の宿泊体験施設にきた福島の子どもたちとの交流。お祭りの盛り上げ。
- F) II OVF YOKOHAMA
 - →大人が中心のごみ拾いイベントへの参加と意見提案。
- F) 戸塚フリーステージ実行委員会
 - →駅前コンサートの準備、盛り上げ、プログラム作り、ユーストリーム中継の実施
- G) ほどがや人·まち·文化振興会
 - →恒例の宿場まつりへの企画提案「じゃがいも神輿練り歩き」「浮世絵工作」を準備して実施
- H) 一般社団法人横浜みなとみらい 21
 - →社会実験で行なっているイベントでのアンケート調査実施
- 1) 和田町タウンマネジメント協議会地域とこどもプロジェクトチーム
 - →まちあるきイベントの下見、準備、アイデア出し。
- J) 特定非営利活動法人都筑ハーベストの会
 - →障がい者が運営する畑で採れた野菜を使った新商品の開発参加
- K) 日本スポーツ GOMI 拾い連盟
 - →ごみ拾いイベントの企画からの参加。イベント内でのゲーム実施等。
- L) おもいやりライト運動事務局
 - →おもいやり運動に参加している企業の取材とより波及させるためのアイデア出し。
- M) NPO 法人都筑民家園管理運営委員会
 - →アートイベントの企画提案とイベント運営
- N) 非営利活動団体スマイルミニシティプロジェクト
 - →こどものまちのイベントの盛り上げ、運営
- 0) 神奈川県県西地域県政総合センター
 - →アートイベントの中で、特にこどもたちが参加する「元気旗」づくりのお手伝い
- P) 特定非営利活動法人 Love つづき
 - →主に障がい者の製品を扱うネットショップの商品企画への参加等
- Q) つづきミュージックビート実行委員会
 - →中高生のバンド、ダンスの祭典の PR、当日の運営、司会等
- ▶ 15 時 45 分~17 時

パネル展示を行なっているホワイエにて、17 団体との子どもアクターの活動を、来場者からの質疑 応答を中心に、順番にポスターセッションを行なった。

▶ 17 時~18 時

3Fにて、来場者、子どもアクター、団体、推進会議メンバー間での、交流会を行なった。

参加者数 特命子ども地域アクター23 名、まちづくり団体 15 団体参加。(2 団体はビデオ、メッセージ等で参加。)、推進会議メンバー神奈川県3名、NPO法人ミニシティ・プラス7名、横浜プランナー

ズネットワーク 2 名、リスト(株) 1 名、NPO 法人シャーロック・ホームズ 1 名 * 参考資料: 参加者募集チラシ、≪子どもまちづくりアクション成果発表会・活動報告シアター≫

(7) 推進会議について

「かながわ子どもの地域社会参画推進会議」を定期的に開催した。

- ① 平成 24 年 1 月 27 日(金)18 時~20 時 第1回推進会議(さくらワークス)(11 人出席) …推進会議メンバー顔合わせ
- ② 平成 24 年 2 月 24 日(金) 20 時~21 時 第2回推進会議(県立青少年センター) (9 人出席+オブザーバ学生参加2人)
 - …事業説明会の報告及びまちづくりの現場募集について確認
- ③ : 平成 24 年 3 月 28 日(水) 18 時~20 時 第3回推進会議(関内 さくらワークス) (10 人出席+オブザーバ学生参加3人)
 - ・・・・事業説明会の報告、子ども地域アクター応募状況の確認と、募集期間の延長を決定。まちづくりの現場募集についても協議
- ④ 平成 24 年 5 月 13 日(日)15 時半~17 時半 第4回推進会議(県立青少年センター)
 (12 人出席+オブザーバ学生参加2人)
 …4月、5月の子ども会議の報告、追加5人のアクターの承認について、まちづくり現場の選考、今後のスケジュールの確認等
- ⑤ 平成 24 年7月8日(日)13 時半~15 時半 第5回推進会議(県立青少年センター)(9人出席) …いろは講座・お見合い会の報告、特命子ども地域アクターの希望とまちづくり現場とのマッチング、今後のスケジュールの確認等
- ⑥ 平成24年10月7日18時半~19時半 第6回推進会議(関内リスト本社5階会議室)(9名参加) …成果発表会(フォーラムの方針)について、概要・内容・集客方法などを協議・承認、会計予算につい て現況の報告、派遣終盤の様子について、今後のスケジュールの確認等
- ② 平成 25 年 3 月 17 日 10 時~12 時第 8 回推進会議(県立青少年センター)
 - …平成 23.24 年度事業の報告、振り返り、及び次期展開についての協議。
 - *推進会議は平成25年度も継続して事業実施予定

*参考資料:推進会議議事録(第2回~第7回)

3. 事業の評価

(1) 特命子ども地域アクターの視点から

① 事業に参加したことへの自己評価

「まちづくり」への新しい気づき

- いろは講座でまちづくりとは「ハード」だけでなく「ソフト」もあることがわかった。
- ・ 大人と一緒に活動できたことで、大人のまちづくりがわかった。(中1男子)
- ・ いままで観客目線でみていたイベントの実行する側になって、大人の視点を知ることができた。(中1男子)
- まちづくり団体は人と人とのつながりを増やす活動をしている人だとわかった。(高1女子)
- ・ 子どもが主体になっているまちづくりもあるんだと知った。(高3女子)
- まちづくりはもっと硬いものだと思っていたがそうでもなかった。(高3女子)
- 子どもでも活動に参加してまちの力になれると知った(高3女子)
- まちあるきは、まちのことを知ることに役立つ。だから他のところでもまちあるきをやってみたい(小5女子)
- (企業の活動に参加したアクター)企業がまちづくりをしていることを初めて知った(高3女子)(中1男子)
- まちづくり講座を受けて、都会のまちづくりの事情がわかった。(中2女子)
- ・ 企業の活動で社会に役立つことをいろいろやっていることなど、いままで知らなかったいろいろなことを知った。(中2男子)
- ・ 私達は常にまちの悪い面ばかりに目がつくが、良い面を発見し、見つめなおすことで、新たな発見が生まれる事もあるとわかった。(高3女子)
- ・ まちの歴史や地理について教えてもらって、まちの知らないことをたくさん知った。(高1女子)
- 会社で、環境にすごく配慮しているところがあるんだ、と知った。

大人に対する視点の変化

- まちづくりに関わる大人はかっこいいと思った。(中1男子)
- 人を集めるのは難しかったので、たくさん人を集めている地元のお祭りは、きっと頑張ってるんだろうなと思った。(高1女子)
- ・ あまり知られていないまちづくりの活動でも、大人たちがちゃんとやっててすごいと思った(中1女子)
- まちづくり団体は、自分だけのことじゃなく、他の人のためなのに一生懸命やっていてすごい。(中2男子)
- 大人の人たちは優しくていろんな年代の人と交流できた。(高1男子)(高3女子)
- ・ 大きなイベントなのに予算がゼロと聞いて驚いた。予算をつける工夫ができたらいい(高1男子)

自分自身への発見

- まちづくりの道へ進みたい(高2男子)
- 大人と同等に意見が言えたことがうれしい(小5女子)
- ・ 大人の中で活発に発言できたし、活躍できた(中1男子)
- ・ 初めて大人の活動を取材したが、吸収し、学ぶことができた(高3女子)
- もともと人見知りで、話すのが面倒みたいな性格だったが、話していたら知らないことを知ったし、いろんな人 と話せるのが面白くなった。(高1男子)
- 自分から大人に話しかけることはなかったのに、チャリティの販売でお客さんと話すことができた(高1男子)

- アクターになって、自分でネットで調べ、ひとりでも交通移動できるようになった。(小5女子)
- コミュニケーション力が向上した。(高3女子)
- アクターになって大人と自然に話すことができるようになった。成長した。(中1女子)
- アクターに参加して、まちのことを考えるようになった。(中1男子)
- まちづくり講座は難しかったけど、よくわかった。(中2男子)
- ・ 今までは、仲のいい人しか喋れなかったけど、大人スタッフの人とも少しずつ話せるようになった。(中1女子)
- 取材を機に他の人のインタビューや姉妹記事に自然と目がいくようになった。このような経験を活かし、これからは色々な人と話をして知識や情報を吸収して成長をしていきたいと思った。(高1女子)
- 初対面の人と話をするのがとても楽になった。(高1女子)
- まちづくりについて学びたいという気持ちが強くなった。(高3女子)

② まちづくり団体への評価(改善して欲しい点含む)

- ・ 会議が1回しかなく、どんな内容をやるのかがよくわからないまま進んでしまった(中1男子)
- 子どもの横で喫煙はやめてほしい(中1男子)
- ・ 団体の人と話す機会がすくなかった(高1男子)
- ・ <u>担当でないことも手が空いたらお手伝いしたかった</u>。でも担当でないということでできなかった。臨機応変に 対応させて欲しい(小6女子)
- イベントのタイトルとやっている内容が違いすぎてわかりにくいので変えたほうがいい。(小6男子)
- 参加者に DM を送ったらとアドバイスしたら、100 名子どもの参加者が増えた。子どもは、大人の理解があって参加するので、DM は(親が見てどんなイベントかわかるので)効果があると思う。(中1男子)
- 参加すれば楽しいイベントなのに、参加者が少なく、どうしてその楽しさを事前に伝えられないのか。子どもたちの集まる場所をもっと調査したほうがいい(中2男子)
- 気軽に参加できる雰囲気が、活動が長く続く秘訣なのではないかと思った(高3女子)
- 大人だけで会議をしている感じで、意見を発言できるチャンスが少なかった。発言をしてもいいという雰囲気をつくって欲しい。(中1男子)(小5女子)

③ その他の意見

- ・ 小学生から参加するとアクターを長く続けられるので、小学生ももっと増やすといい。(小5女子)
- アクターのスケジュールがもっとはやめに出ていると、スケジュールを入れられて参加しやすいのではないか。(高3女子)
- アクターは参加すれば楽しいのに、最初の一歩が難しい。興味の沸く人につながる広報が大事だと思った。 (高3女子)
- 小学生がもっとアクターに参加できるといい。(小6女子)
- まちづくり講座は難しかったのでもっとやさしくしてほしい。(中1女子)
- アクターをもっと知ってもらうためには、学校がもっと積極的にPRしてくれるといい。(中1女子)
- 大人に褒められて嬉しかった(小5女子)(中1男子)(中1女子)(高1男子)(高3女子)
- アクターの説明が難しく、わかりやすい説明が欲しい(中1男子)

- ・ 行政に関わるプロジェクトにもっと深く関わってみたい(中1男子)
- もっと神奈川県の広い範囲のいろんなまちに行ってみたい(中1男子)

(2) まちづくり団体の視点から

① 事業参加したことへの自己評価

- ・ お手伝い程度にしか今回お手伝いとしてでしか関わってもらえなかった。もう少し、アクターの皆さんから意見をもらい、イベントに反映できればよかった。
- 子どもたちがここまでできると思っておらず、今回はもっと積極的に参加できる場を用意していなかった。
- 今回子どもたちと接する事により、子どもたちとどう接すれば良いか、スタッフが勉強させてもらった。
- ・ 大人中心のまちづくりの視点では行き詰っていくのではないかと思い、アクターに入ってもらった。とても効果があったと思うので、次回も参画してもらいたい。
- ・ 子どものアイデアでなにかいいものを見出したいと思い参加した。それには参加時間が短すぎる。アクターとのスケジュール調整がうまく合わなくて参加の時間が短く、もっと定例的に参加してもらいたかった。
- 不特定多数の人たちに広報したいときには、大人だけでキャンペーンをするのではなく、子どもたちも巻き込んでいくことは必須だと思った。
- もっと企画の段階からもっとアクターに参加してもらうべきだった。できると期待していなかったので、どの適 度やってもらえるかわからなかった。
- 大人の会議の中で、子どもたちにうまく発言してもらうことに大人たちが慣れていない。
- ・ 子どもたちを企画から入れるというのは、初めての試みでどのような関わりができるのか未知数だったため、 受け入れの準備が十分でなかった(複数団体から)

② 特命子ども地域アクターへの評価

- 子どもたちには、頭の硬い大人には思いつかない色々なアイデアがつまっていた。
- 素直な反応や正直な意見を子どもたちは出してくれた。
- アクターが来てくれたことで、イベントが活気づいた。刺激をたくさんもらった。
- アクターが入ることでイベントを客観視することができた。
- アクターの言葉でまちづくりの活動を発信することで、これからのまちづくりを担う若い方にも伝わりやすいこと 情報発信ができた。
- こんなに頑張ってくれるとは正直思っていなかったので嬉しい驚きだった。
- これからも一緒に関わっていきたいと思える責任とやる気を実感した。
- アクターが参加したことで、自分たちがずっと関わってきたまちを、新鮮な目で見ることができた。
- 準備の段階から目的意識をもって参加してくれて、プロジェクトを引っ張ってくれた。
- アクターが参加したことで子どもも集まってくる。地域の活性化には子どもの力が必要だと感じた
- アクターが参加したことで、当日参加の子どもたちがとても参加しやすくなっていたと思う。イベントに子どもたちとの一体感が生まれた。
- ・ <u>当日のドタキャンはきつい</u>。当日朝、あるいは深夜に突然これなくなったと言われ、期待していた大人たちをがっかりさせた。もっと早くからわかっていた理由だったのようなので、早めに連絡して欲しかった。(2つの団体から)

- アクターのスケジュールが忙しすぎて、こちらの時間を合わず、残念なこともあった。
- ・ ゴミ拾いイベントで小学生以下の子どもたちに対する告知や呼びかけについて意見をたくさん出してくれた。 横浜市の資源循環局のキャラクターのイーオくんやミーオくんのキャラクターを活用した告知チラシなど。
- その場にあるものだけを使って臨機応変に楽しくゲームを考え、当日参加した子どもの気持ちをつかんで、 非常に楽しそうに、場をもりあげてくれた。大人ではできないこと。
- ・ 色々なアイデアがぽんぽん出てきて、細かい所まで子どもたちの目が入ったことで楽しいイベントになった。もっともっと子どもたちに親しんでもらいたいので来年も企画の段階から色々なアイデアを出してもらいたい。
- ・ イベントの関係者(大人)から、「アクターの礼儀が悪かった」といわれた。親しみをもって大人と対等に参画 するのと、目上の人への尊敬の念の兼ね合いは難しいと感じた。

(3) 推進会議の視点から

NPO 法人プランナーズネットワーク 内海氏より

(1) この事業に参加した意図や趣旨に賛同した背景

NPO 法人ミニシティ・プラスは子どもたちだけで関係づくりをする活動をしていますが、今回の「特命子ども地域アクター」の取組みは地域やNPOの活動とどのような関係を形成できるのか、いわば社会的な参加や関係づくりが、子どもと大人の中でどのようにできるのかに関心があり、参加しました。

子どもの時から地域や NPO に関わる経験を経ることで、知識を習得するのとは違う進路選択の可能性が高まり、将来、地域や NPO を担う人材育成にも役立つかもしれないとの思いもありました。

以前戸塚高校の学生に戸塚区の地域福祉計画に関するヒアリング調査を実施した時に、3 年生が、現状では大学や専門学校に行くだけの情報や体験しかないが、1 年生や 2 年生のときに、卒業後どうするか、あるいは大学を卒業した後にどのような職に就くかについても、例えば NPO 活動でやっていく世界があることが体験できるなど、もう少し幅広で考え判断できる状況があるとよいと言っていたのが印象的でした。

私が 7 年間くらいお付き合いのある洋光台まちづくり協議会は、連合自治会の役員に公募委員を加え、課題解決を図るために設立された団体ですが、そのなかの青少年夢環境部会がプレイパーク事業を実施しています。プレイパークは大学生等のプレイリーダーが子どもたちに冒険遊びを教えるものですが、プレイリーダーの補助員のようなことが、今回の特命子ども地域アクターにお願いできないかとの考えもありましたが、遊び方を教える補助員を小中学生にやってもらうのは難しいことがわかり、断念しました。

② この事業に関して素直な感想と課題

「特命」「子ども地域アクター」という言葉に対しては、「特別扱い」「演ずるのかなあ」と感じられるところがあり、 ちょっと違和感を感じていましたが、これらの言葉に対する参加子どもたちはどのように受け取っていたのかを 知りたいです。それらをヒアリングした上で再考すべきかどうかを考えるのが良いと思います。

小学生というよりは中学生以上の参加がもっと多いと思いましたが、思っていた以上にアクターに参加した 年齢は低いと思いました。また、発表などを聞いていると、私の子どものころではとても考えられない考えと発 想を持っている子どもが多く、結構すごいことができてしまうのだという驚きを持ちました。地域や NPO 側が特 命子ども地域アクターを受け入れるとなると、ある意味覚悟を決めて、段取り等で手間暇がかかることをいと わないことが重要だと思いました。ですが、今回の団体側の発表を聞いていて、受け入れた側もそこまでやっ ても得るものがあったと言っていたのが印象に残りました。

リスト(株)松本氏より

① この事業に参加した意図や趣旨に賛同した背景

当社は以前から少年スポーツ企画の支援・開催などの地域CSR活動を大切にしてきました。

今回の企画は当社にとってNPOや行政の方たちとの初の協働事業であったこと、以前から協力関係にあったNPOが参画していることで安心感があったことから、この事業に参画することが有意義だと判断しました。

今回の企画は年令・ジャンル共に従来の当社CSR活動の重点領域の隣地であり、ネットワークと合せて当社 CSR活動の幅が広がることも期待して参画しました。

② この事業に関して率直な感想と課題

感想・・想像はしていましたが、NPOのみなさんの熱心さ、問題意識と見識の高さに改めて敬服しました。予想外だったことは、参加した子どもたちの意識や行動力の素晴らしさとこの企画全体の運営の生産性の高さです。

課題・・とにかく広報PRが不足していると思います。とても良い活動なのに多くの人に知られないのはもったいない!の一言に尽きます。また、一年を終えたこの段階で本事業の意義を再整理する必要があると思います。将来の地域や日本を背負う子どもたちを育成することが主目的なのか、困っている地域や団体の支援なのか、参加する地域・団体と子どもの双方にメリットがあることの啓蒙なのか、等でしょうか。それにより、次は一歩進化した事業活動になると考えます。

NPO 法人シャーロック・ホームズ 東氏より

(1) この事業に参加した意図や趣旨に替同した背景

青少年問題協議会のテーマだった子どもの社会参画について、委員終了後もこのテーマに実践的に取り 組みたいと思い、参加しました。

また、以前からミニシティ・プラスが取り組む子どものまちづくりに関心があり、子ども支援を考える上で様々な影響や知識、情報を得られることにメリットを感じました。

② この事業に関して率直な感想と今後の課題

受け入れ先と子どもたちをコーディネートすることにとても労力を費やしたことと思います。この労力なしに は成り立たない事業なので、ここにそれなりの予算がつかないと難しい事業だとも思います。

また、受け入れ側もただのお手伝いを受け入れるわけではないので覚悟の上の受け入れだと思いますが、 コーディネートのおかげで子どもたちがそれぞれ力を発揮できる場になっていったのではないかと思います。

ただ、この事業自体の PR 不足は残念です。もう少しキャッチーな PR が出来るといいと思います。

今年度の実績を踏まえて、次年度は広報しやすくなると思うので、私のまわりの子どもたちもイメージつかめず参加しなかった子がいましたが、その子たちが「なるほどね!」と思えるような、PR ツールをつくったらよいのだと思います。

NPO 法人教育支援協会 田中氏より

① この事業に参加した意図や趣旨に賛同した背景

「子ども参画」ということの本来の意味がなかなか理解されない状況なので、子どもが参画するという意味を多くの人に考えてもらいたいと思いました。また、自分自身も勉強させてもらい、自身のNPOの活動に参加している子どもたちにも、是非ともこういう活動に参加させてもらえたらと考えました。

② この事業に関して率直な感想と今後の課題

すばらしい企画だったと思います。子どもたちが自主的に企画から参加することは、なかなかないことだし、それを受けいれた団体の方々にとっても新鮮 だったのではと思います。

今後の課題としては、このような活動に参加する子どもたちが、都筑区を除いてはまだまだ育っていないのではと感じ、もっと社会全体にこのような活動を浸透させていく必要があるかと思いました。

今回、都筑区の子どもたちの参加が多かったのは、都筑区の地道な地域活動がその地域の子どもたちを育てていると思いました。今後、参加した子どもたちが自分の地域で活躍できるように整備できるといいなと思います。

事務局 NPO 法人ミニシティ・プラスより

この事業は、NPO 法人ミニシティ・プラスが神奈川県と協働提案し、推進会議メンバーに声をかけ、協力してもらいながら、行ってきました。

NPO 法人ミニシティ・プラスでは、2007年より、子どもたちの力で仮想のまちをつくる「ミニヨコハマシティ」を開催してきました。その子どもたちが、成長し大人になっていったときに、本物のまちづくりの現場で活躍することに、結びついていく必要があると感じていました。

子どもたちは、活躍できるステージを用意すると、私たちの期待通りの活躍をしてくれました。このような初めての試みがもっと広がっていき、子どもの社会参画が当たり前になっていく社会を目指して、さらに事業を進めて行きたいと思います。

(4) ネットワーク構築について(協力体について)

本事業の目的の1つとして「子どもの社会参画の推進」をめざした横のネットワークを創るということがあり、そのため、この事業は子どもにかかわる団体組織(NPO 法人教育支援協会、NPO 法人シャーロックホームズ)、地域まちづくりの中間支援センター的な組織(NPO 法人横浜プランナーズネットワーク、NPO 法人アクションポート横浜)および行政(神奈川県)、企業(㈱リスト)により組織化しました。

これらの組織は「子どもの社会参画推進」をテーマに同じテーブル上で議論する機会はほとんどないのが 現実であり、今回、このような会議体ができたこと自体、この事業への参加の目的や効果等のコメントを省み て意義があったといえます。

一方、地域課題やまちづくりの現場をよく把握する団体組織、すなわち子どもたちの派遣を受け入れる等のまちづくり現場のネットワーク化についてまだまだ途上段階です。子どもの社会参画推進の啓発といった動きに持っていくため想定した「協力体」という組織の目的や意義についてはまだ議論の余地があり、次年度の課題です。

4. 今後に向けて

社会に参画できる子どもを育成しまちづくりという具体的な現場を提供するという従来にはなかった新たな仕組みの構築を行い、参加した子ども自身にはまちづくりやそれに関わる人への新しい視野を広げるきっかけとなったこと、参加したまちづくり団体には大いなる子どもへの可能性への開眼を与えたこと、参加した双方の大半が継続を希望しているということは、この事業の意義への確証であり、実働1年という短期間の中で十分な成果であったと自負している。

一方で、参加に至る前の子どもやまちづくり組織の募集については、苦慮したこともあり、事業の広報手段やルート については、この事業そのものの啓発活動推進と合わせ、更なる工夫が必要であろう。

受け入れるまちづくり団体側には、子ども達への対応に当初不安がる声もあり試行錯誤な団体も多かった。本事業の受け入れ団体は、子どもの社会参画推進団体としてオピニオンリーダー的な存在となり得ることからも、事前・事後研修や団体同士の交流機会を積極的に設けていくことも求められる。まちづくり組織と子どもの支援事業者が同じ組織体として直接結び付く機会が少ない中での、会議体や協議体の体制・運営についてもまだまだ改善の余地が多い。

本年度子ども達が格闘したまちづくり現場以外にも、まちづくり課題としては、買い物弱者等の増加、非常時の要介護者への支援問題等、重い社会課題で長期的視野での取り組みも多い。このような課題も子ども自身が理解し支える一員としての意識を高めること、そのような子ども達が地域の一員と受容され、実際に役割を担えるようになることが、本事業の最終目標である。事業を継続する中で子ども達やまちづくり団体の双方がどのように変化していくのか、今後も引き続き検証をしながら目標に向けて進めていきたい。